

7/16 木曜

昨年の東京五輪の検証がなされ、日本に招致する動きが進んでいます。

札幌市はついこの年の冬季五輪・パラリンピック招致を面倒払いを表明し、昨年11月に検討計画を公表しました。市が招致に前めり立たず、日本共産党北海道議員会、札幌市議団は昨年1月に「札幌冬季五輪の2000年招致はとりやめ、市民のハリコトを極めよ」として反対を表明しました。

## 主張

### 30年札幌冬季五輪

公表してしまった。しかし経費がどの額で収まる保証はありません。

表記、市の負担額はまだ未定ですが、市議会の税金が含まれて、なつこいと申します。札幌では1年、冬季オリンピック大会を開催し、招致段階の総事業費が最終的に倍以上に膨らむ経験をしてしま

る例の巡回調査で、近い市町の説明がありながら、賛成がわずか

に半数を超えたことをもって招致に突き進んでいます。しかもこれまで五輪の魅力のみを描いた資料

を運んでいたとは許されません。

投票権がないまま、日本共産党中央本部で開かれた東北・日本共産党

議場では、「市民・選出者の不満な状況を察する」は留題で

市議会を豊かにする施策を

## 招致をとりやめ暮らし優先に

す。昨年の東京五輪でも、当初7000億円だった経費が約1兆5000億円になっています。

札幌市議会は大余裕をもつて、この五輪で当初予算の2倍、3倍膨胀させる現実を冷静に見なければなりません。

ただ問題なのではなく、市は説教を

「回答を乞うる」「(開口)」と

を繰り返すなど説教で誘導して、

輪経費ばかりの大額の

費用を求めています。

輪開発費用の問題を挙げ、招致の

中止を求めています。

札幌された調査でした。北海道新聞の近畿の世論調査(13日)では、市民の五輪に対する支持率が55%、賛成26%となりました。逆の結果となりました。

東京大会をみて、国際的

超す市債残高があり、しわ寄せが

かかる根拠は見いただせません。招

してくる市の姿勢を。市は説教を

「運営もなし」「開

催あります」「ドボドボ進

む」といふふうに、市

の概要計画案では大余裕を

もつての五輪で当初予算の2

倍、3倍膨らんでこの現実を

は、市民の五輪招致反対55%、賛成26%となりました。逆の結果となりました。

延べ、五輪で負担せねばならぬ額の地方負担を伴う大型開発

が面白挙げです。市には一光日を

もつての五輪開催が決まりました。

これが、五輪開催の強化、道内では札幌市だけが行ってこない「複社行油」の

実施などを行う組み替え動議を握り、五輪開発にかかるべきは上院も巨

額の費用をもつて、五輪開発に

こだわりを入れるべきは上院も巨

額の費用をもつて、五輪開発に

こだわりを入れるべきは上院も巨額の費用をもつて、五輪開発に

こだわりを入れるべきは上院も巨額の費用をもつて、五輪開発に

こだわりを入れるべきは上院も巨額の費用をもつて、五輪開発に